

STYLING

MONO

「育ちのいい悪ガキ」というのは何と魅力的なコンセプトだろうか。アメリカならギャングスター、日本ならヤンキーになるところがイギリスならば「ダファー」になる。醸成された文化の深さを感じられるファッションブランドといえる。



VOL.60 The DUFFER of St.GEORGE SINCE 1984~

●[ダファー]

Photo / Tomoaki Tsuruda (WPP)
The DUFFER of st.George
Text / Teruhiko Doi (WPP)



国が変われば教育制度も変わる。イングランドには公立学校と私立のインデペンデント・スクールがあつて、

伝統的なパブリック・スクールはインデペンデント・スクールに含まれる。学歴や資格ごとの賃金格差が激しいイギリスでは、名門大学への進学のだ筋として、パブリック・スクール出というのは絶対条件に近い。

両家の子女というのは大抵このパブリック・スクール出なのだ。しかし、パブリック・スクールは13歳〜18歳のいたずら盛りが就学する学校。

ブレザーにタイ着用のそんなパブリック・スクールの悪ガキを描いた映画や小説は少なくない。

1960年代の英国『ミック誌 [Boy's Own]』

The Duffer of st.Georges / セントジョージのやんちゃ者たち、というストーリーがある。

やんちゃだけど、身なりのいいお洒落なパブリック・スクールの少年たちを描いたこのストーリーに何となくシンクロして生まれたのが、ファッションブランドの『ダファー・オブ・セントジョージ』。

品々、品のいい悪ガキという英国らしい価値観を体現するブランドの魅力を探ってみよう。

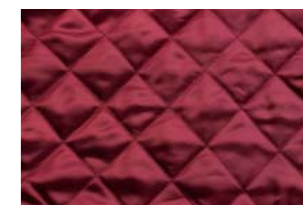
STYLING

MONO

ダファー・オブ・セントジョージのロゴマークは、英国王家に代表される伝統的な家紋をモディファイ。盾(シールド)紋章がモチーフである。盾の紋章というのはエドワード王時代から使用されている、英国の紋章の中でもかなり伝統的なモチーフなのだ。



THE DUFFER OF ST. GEORGE



いくつになっても少年らしさが残るのは男にとって魅力的である条件の一つ。メルトン生地とラムレザーを組み合わせたスタジアムジャンパーはネック周りに特徴を持たせた、粋なデザイン。定番のサイドレース・スニーカーと

組み合わせると一味違うカジュアルを。クラシックだけど、どこかモダンでスポーティそしてほんのちよつとのユーモラスさが大人の余裕を感じさせてくれる。もちろん、細部にわたる作りの良さは大人が選ぶ服としての絶対条件だ。

少年雑誌からブランド名を命名

1960年代に発行されたイギリスのコミック誌。コミックとは言っても日本の漫画とは異なり、ヨーロッパでは挿絵イラストと文章の組み合わせが一般的。で、この号の中に入っている「The Duffer of St. Georges」の記事から、ブランド名が命名された。19世紀の英国小説「ボートの三人男」(ジェローム・K・ジェローム作)の世界観というか気風は、この国ならではの。60年代のコミックからもそうした感覚が読み取れる。



STYLING

MONO



英国を代表するスウェードシューズであるクラークス。その名品「ワラビー」を人気シューズにしたのもダファーのショップから。1995年のことだった。セレクトショップ的感性がダファー人気の根底にある事実だ。

創業当時のメンバー。デニムの色落ち具合は現在ならヨダレもののクールさだ。



1980年代のイギリスは、サッチャー政権下で国営企業の民営化や規制緩和が進められていた時代。ボリスやジャム、ペットショップボーイズなどの英国出身アーティストの楽曲が、ヒットチャートを賑わせていた。そんな80年代のころ、1984年にエディ・ブレンダーガストとマルコ・ケアンズという二人の男が立ち上げたファッショントブランドが「ダファー・オブ・セントジョージ」である。ブランド名の由来は1960年代のコミック誌にあった、ある章のタイトルから。彼らが好きだった

ヴィンテージな風合いを大切にした、ダファーの織りネーム。



たファッショント、そのコミックで描かれていたパブリック・スクールの青少年たちの世界観が、うまい具合に合致していたから、その場で決めたという。彼らがやりたかったファッショントは、スマートで遊び好き、スポーツで少年らしさとセンスあるユーモアを持ち、それでいていろんな事情や情報への深い洞察とインテリジェンスを持ち合わせている、という世界観。一見すると八方美人とも取られかねないコンセプトだが、よくよく読み解いていくと、こうした資質を持ち合わせているのは、パブリックスクールに通う、ちよつとやんちゃな若者たちの多くが持ち合わせている資質とも言えるものだった。「ダファー」というブランド名は、ある意味で必然でもあったのだ。彼らの事業は当初、ヴィンテージとアンティークのセレクトショップからスタート。翌年にはポートベローに1号店をオープン、'87年頃からはオリジナルのコレクションをスタートさせている。'90年代に入ると、音楽シーンはDJ主導のクラブミュージックが全盛となる。この頃人気だったのは、アシッドジャズで定番となったスウェード使いのカーディガン。イギリスで初めてレディングのワークブーツを展開するようになるのもこの頃の話だ。1993年には英国ファッショント協会からデザイナー・オブ・ザ・イヤーを受賞。大切な気持ちを持ってワイドロープに加えておきたいブランドである。

ダファーのデザイン全般を手掛けるクリエイティブ・ディレクターのマルコ・ケアンズ。



550gのメルトン素材が使用されている。袖部分はラムレザーを使用。リブ編みのパーツもしっかりした作り。



定番カラーのネイビーがやっぱりいい。AWARD JACKET。カラーはネイビー以外にベージュ、ブラックが用意されている。サイズF、S、M、L、XL。

ロンドンカルチャーを体現し続けている知的なブランド



STYLING

MONO

ダフター・オブ・セントジョージズに関する
お問い合わせは
ジョイックスコーポレーション
☎03-3486-1573
[http://www.joix-corp.com/
the_duffer_of_st_george/](http://www.joix-corp.com/the_duffer_of_st_george/)



元はセレクトショップから
スタートし、やがてオリジナルの
衣料を展開して現在に至る。
その間、さまざまな流行を生み出した。
写真は90年代のショップの様子



↑AWARD JACKET
価格3万9900円/ブラック



←DERBY SHOES
価格1万8900円/ネイビー
サックス/ネイビーのシューレース付属



↑AWARD JACKET
価格3万9900円/ベージュ



←DERBY SHOES
価格1万8900円/ベージュ
ブラウン/ベージュのシューレース付属



定番のサイドレススニーカー。
今シーズンはカラフルな
ウールフランネル素材を採用。



GREENY
価格9975円/カラーはレッド、
イエロー、グリーン、ネイビーの4色。